

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価（中間報告）		学校関係者評価 (10月22日実施)	総合評価（3月7日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・新たに工業教育の充実と多彩な進路に対応する教育課程を提供する。 ・探究活動を通し、自らの課題発見と解決能力を育成する。	①新たな進路別の教育課程により多彩な進路に対応する。 ②工業教育の活性化を図り、生徒の自己肯定感を高めるとともに、探究活動を通して自己の生き方、進路理解、地域リーダーとしての資質を身に着けさせる。	①2年次から進路別の必修選択を行い、将来の進路に備える。 ②資格取得やコンテスト等への参加により、成功体験を積み重ねることで、進路実現に向けた意識向上を図る。 ②総合的な探究の時間や向工 Fes で体験活動を積み重ね、資質の向上を図る。	①1年生が進路別必修を理解し、自己の将来に合わせた選択を行う事ができたか。 ②資格取得への取り組み状況は向上したか。工業に取り組む意識は向上したか。 ②探究活動や向工 Fes により自己理解や地域のリーダーとなる資質が向上したか。	①総合的な探究の時間、向工 Fes を通じて進路選択について考え、2年次の必修選択を行うことができた。 ②ジュニアマイスターは前期で3名の申請があった。上級資格への挑戦も多数みられる。 ②総合的な探究の時間、向工 Fes を通じ、生徒の資質の向上が図れた。	①建設科1年コース選択の時期について検討が必要である。 ②引き続き生徒の活動を支援し、成功体験による自己肯定感の向上に努める。 ②生徒の自己理解については資質の十分な向上が見られたが、学び直しについては AI 学習ソフトを使った指導法の改善などが必要である。	・STEAM教育や学科を超えた共同授業等の導入、推進が望まれる。 ・資格取得やジュニアマイスターへの挑戦で工業高校生としての成功体験を積み重ねて欲しい。 ・生徒の学習レベルに応じた AI 学習の導入は望ましい手段のため、今後活用をしていただきたい。 ・デジタル化の活用は不可欠であり、様々な IT 技術に触れる機会を作ってほしい。	①進路別の新教育課程により1年次から将来の進路を考えた進路選択の指導ができた。 ②工業教育の活性化を図り、ジュニアマイスター8名(ゴールド3名・シルバー4名・ブロンズ1名)および工業系各種コンテストで活躍が見られた。 ②地域探究の取組みは肯定的な回答が8割を超え、生徒は主体的な成功体験が行えた。AI 学習ソフトによる学び直しは年間を通じて取組みが低調であった。	①総探においては学年、進路指導G、総探 PT の連携を強化して進める。 ②工業教育への興味関心を育み、取り組みを継続していくとともに、指導教員の育成にも取り組む。 ②地域探究におけるリーダー育成は企業の協力を仰ぎ、引き続き実施する。 ②AI 学習ソフトによる学び直しは指導法の見直し、端末忘れ対策を図り、学力成果の向上を図る。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	・生徒の主体性、協調性の育成をめざし、学校行事や部活動等を推進する。 ・生徒の安心・安全な学校生活に向けて、生徒一人ひとりに応じた支援を推進する。	①生徒会、各委員会、部活動における主体的な活動の支援を行う。 ②個々の生徒に応じた生徒指導・支援を行う。	①生徒会や委員会の組織を適切に構築し、学校内の様々な課題に協力して取り組めるよう支援する。 ②問題行動の未然防止として、些細な情報も漏らさず、きめ細やかな対応を図る。 ②子どもサポートドックの取組みを推進し、SCやSSWとの協働を進める。	①学校内の課題解決や行事の成功、生徒の成長などを観察し、効果的な支援を行えたか。 ②問題行動の未然防止により特別指導の件数が前年度より減少したか。 ②生徒が相談窓口を理解し、職員の生徒への支援意識の醸成が図れたか。	①生徒会本部の生徒と連携して生徒会がメインとなり、行事を盛り上げていく支援と助言をしている。 ①ボランティア委員会では、エコキャップ回収運動を新たな企画とし、取り組んだ。 ②9月30日現在の発生件数が26件となっており増加傾向にあることから、事案を分析し防止策を検討する必要がある。 ②子どもサポートドックから気になる生徒を見つけ、支援につなげられている。	①文化祭や体育祭で生徒が主体となる行事になるよう引き続き支援・助言を行う。 ②1学年の指導件数が増えていることから、学年集会や担任との連携により、学校生活のルールに対する自覚を持たせる。 ②サポートドックを有効活用し、生徒からの SOS が出る前に、生徒の異変を見つけ支援につなげていくようにする。	・生徒が主体的に活動することで得られる、気づきや学びを大切に見守っていただきたい。 ・エコキャップ回収など、資源循環、脱酸素の取り組みに関わることは重要で、そのような資源がどのように再利用されているかを考えるきっかけにもなってほしい。 ・指導件数の増加は危惧するが、日常の学校生活において相談ができる信頼関係を築いていただきたい。 ・ソーシャルメディアに関する教育、高額報酬を歌うバイト等の勧誘への対策も重要だと思う。	①生徒会行事において、生徒会役員の主体的な活動が見られ、多くの生徒に成功体験を積ませることができた。 ①エコキャップ回収運動を地域と連携して新規の取組みとして実施できた。 ②担任との連携により、日頃から相談しやすい環境を整え、いじめに関する早期発見と深刻化する前に解決することができた。SNSの問題が散見され対応の検討が必要である。 ②サポートドックに限らず、教員の日常的な気付きからSCやSSWと連携し支援につなげた。	①生徒会役員の生徒が取組みたいと思っている形を共有し、助言しながら学校行事や部活動の支援にあたる。 ②安全講話や薬物等に関する講座により日頃から教育を行っていくと共に、増加傾向にある SNS の取り扱いに対する対応について、自分事として意識させられるよう、LHRや掲示物、長期休業前の指導等で対策の強化を行う。 ②教育相談コーディネーターを核として、支援を必要とする生徒の対応にあたる。

3	進路指導・支援	<p>・生徒一人ひとりの進路実現に向け、社会的、職業的自立に向け、能力や態度を育成する。</p> <p>・生徒の多様な進路選択に向けた情報収集や情報整理能力を育成する。</p>	<p>①進路選択における進路指導の充実を図る。</p> <p>②専門業者と連携し、進路選択に向けた知識を広めることでミスマッチを防ぐ。</p>	<p>①ICTを活用した情報提供を行い、進路に関する相談時間を確保する。</p> <p>②専門業者を利用し、説明会・セミナー等を開催、模擬試験や論文指導等を行う。</p>	<p>①ICTの活用により、生徒がより多くの情報収集と相談時間の確保ができたか。</p> <p>②自己の実力を判断し、進路選択に役立てることができたか。</p>	<p>①求人情報など、ICTを活用した情報提供を行った。</p> <p>②専門業者を利用し、履歴書指導、面接指導等を行った。</p>	<p>①企業の訪問対応にかなりの時間を費やしたため、思ったより相談時間を確保できなかった。</p> <p>②専門業者を利用した面接指導や履歴書指導で担当者の負担は多少軽減された。</p>	<p>・進路のミスマッチ防止のために、バランスを見直し、相談時間の確保をお願いしたい。</p> <p>・将来の進路選択を入学直後から意識させ、準備期間を含めて保護者とも情報共有を進めてほしい。</p> <p>・専門業者の活用は継続し、進路指導の充実を図っていただきたい。</p>	<p>①ICTの活用により、生徒が多くの企業情報を得ることができたが、情報過多で決めきれない状況もあった。</p> <p>②専門業者を利用したことで履歴書指導・面接指導の負担は多少軽減されたが、一次内定率の向上には至っていない。</p>	<p>①ミスマッチ防止のためできる限り相談時間を確保するために、早い時期から生徒が動けるよう指導に努める。</p> <p>②専門業者の指導が入っても最終的な指導が必要であり、できるだけ指導時間の確保に努める。</p>
4	地域等との協働	<p>・「学校を核とした地域づくり」をめざして、地域と学校が相互に連携・協働して行う様々な活動を推進する。</p> <p>・中学校やその生徒、保護者へ向け、本校の魅力・特色を広報し、地域に根差した学校づくりを進める。</p>	<p>①「学校を核とした地域づくり」をめざし、地域や企業との連携事業を推進する。</p> <p>②本校のホームページ、説明会等で教育活動を発信する等により広報活動を行う。</p>	<p>①自動ハンドベル演奏やジュークボックス修理、体験教室など、地域や企業との連携事業を行う。</p> <p>②学校説明会の内容を検討し、ホームページや動画等を充実させ、本校の魅力・特色を広報する。</p>	<p>①体験教室のアンケート結果の満足度と地域や企業との連携事業を広報することができたか。</p> <p>②説明会等のアンケート結果の満足度とホームページ等を通して魅力・特色を積極的に発信できたか。</p>	<p>①体験ジュークボックスは多摩区役所主催のイベントに参加した。ワクワク体験やテックラボは100%の満足度との回答であった。</p> <p>②学校説明会や公私合同説明会等多くの参加があり、約75%が満足との回答であった。また、ホームページやInstagramにおいて、学校行事や部活動の大会報告等、実施後すぐに発信をすることができている。</p>	<p>①ハンドベルは生田緑地のイベントに参加予定であったが、雨天不参加であった。今後のテックラボについては引き続き広報をしていきたい。</p> <p>②これからの説明会で授業見学を行い、工業高校の魅力、学校紹介を行っていきたい。ホームページやInstagramの更新も継続して行っていきたい。</p>	<p>・地域のイベントや学校説明会等を通じて「ものづくり」の魅力をさらに発信してもらいたい。</p> <p>・地域にある中小企業との交流を積極的に進めてほしい。</p> <p>・進路選択の支援として、具体的なイメージがあるより適切な選択がしやすいため、就職・進学した卒業生や企業からのプレゼンテーションの機会を設けると良いと思う。</p> <p>・文化祭の科展等、見学者に対する説明を生徒が担当すれば、自分の言葉で学んでいることを説明する良い機会になると思う。</p> <p>・Instagram投稿の充実は素晴らしいと賞賛したい。学校説明会時にはQRコードを印刷物に記載し、志望している中学生・保護者への広報活動にも活用していただきたい。</p>	<p>①ワクワク体験や3回実施されたテックラボの満足度は平均約98%との回答であった。ジュークボックス修理では県工業高等学校生徒研究発表会において会長賞を頂いた。</p> <p>②4回実施した学校説明会は平均約76%が満足との回答であった。また、ホームページやInstagramで本校の魅力・特色を広報することができた。</p> <p>②今年度から始めたInstagramは、今年度だけで111件投稿し、428名のフォロワーを獲得できた。</p>	<p>①テックラボは受け入れ人数が限られているので、中学3年生限定にするなど検討したい。引き続き、学校外の機関と連携し、協働した学びの充実を図る。</p> <p>②分かりやすく魅力の伝わる学校説明会に向けて、実施時期や回数等の検討と満足度の向上を目指して内容の充実を検討する。</p> <p>②Instagramによる広報は今まで情報が届かなかった対象者への広報として、今後も活用を進め、教育活動の効果的な情報発信に努める。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>・学校と授業のICT化を支える情報管理を図る。</p> <p>・生徒の安心・安全な学校生活に向けて、防災教育・環境保全を推進する。</p> <p>・職員の資質向上や、風通しの良い職場づくりにより、事故不祥事防止を未然に防止する。</p>	<p>①すべての教員が校内のICT機器を使用できるようにする。</p> <p>②生徒が安心して過ごせる環境をつくるとともに、職員の事故不祥事を未然に防止する。</p>	<p>①ICT機器使用に関する研修を行う。</p> <p>②生徒が使用する教室の環境整備を行う。</p> <p>②私費会計処理や不祥事防止に係る職員研修を実施する。</p>	<p>①職員がICT機器を使用できる。</p> <p>②選択教室を含む全ての教室で、机・椅子等の整備を行えたか。</p> <p>②会計処理等、不適切な事案がなかったか。</p>	<p>①視聴覚機材をいつでも使えるよう支援用機材の整備や備品管理を行った。</p> <p>②不要な机や椅子を撤去し、倉庫の整理を行った。</p> <p>②私費会計処理に間違いが無いよう、過去の例を提示し注意点を周知した。</p>	<p>①生徒の端末をモニターに映すための機器を購入し、授業での活用を促したい。</p> <p>②机や椅子について、壊れたものを廃棄するのではなく、補修して使う仕組みを整えたい。</p> <p>②実際の事務作業が始まる前に私費会計処理に関する研修を行った方がよい。</p>	<p>・ICT機器の導入、ソフトの活用には十分な研修や活用機会を増やして使う人のノウハウも高めていく必要がある。</p> <p>・机や椅子の補修は、工業高校としての実習効果も期待したい。文化祭でのバザーなどで地域貢献にも活用できる可能性がある。</p> <p>・会計処理など不適切な事案が生じないよう、研修の他、相談しやすく、速やかに改善できるようにお願いしたい。</p>	<p>①生徒端末とモニターの接続機器を導入し、研修会も行ったが、活用は限定的であった。</p> <p>②傷んでいた選択教室の椅子・机の整備を行い、生徒にとって安全な学習環境を作ることができた。</p> <p>②会計担当者の打合せを行い、中間監査までのところで、事故等は起こらなかった。会計が不慣れな職員へのサポートが必要だと感じた。</p>	<p>①今後も説明会を行うとともに、機器使用マニュアルを整備したい。</p> <p>②傷んだ椅子や机を捨ててしまうのではなく、生徒と一緒に修理できないか検討し、工業で学んだ技術を生かして修理したい。</p> <p>②引き続き、情報伝達を確実にして、会計担当者のサポートをしていく。特に、会計処理に慣れていない職員に対して、手厚いサポートをしていきたい。</p>